

長崎便り

隠れキリシタン

森永鉄美 2015.11.20

11月3日は長崎の外海地区 黒崎の山中にある枯松神社の大祭の日です。
晴れ上がったいい天気で、相棒のバイクで出かけました。

枯松神社は人里離れた山の中、後方に見える森の中、山頂付近にひっそりと建っています。



今でこそ道は整備されましたが、里人は木々のあいだの細い石段の道を苦労して上がっていたのです。

西彼半島一帯は古くは大村藩の領地、大村藩はキリスト教に寛大でした。ここ黒崎地区にも多くの信者がおり、海外から宣教師も居てキリスト教の布教活動は盛んでした。



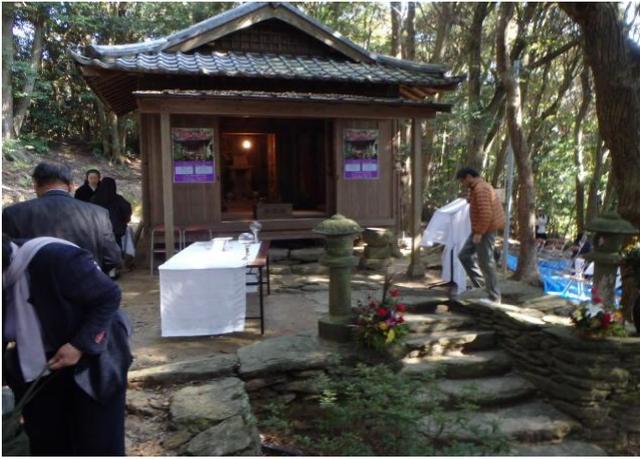
慶長19年（1614年）にキリスト教禁教令が出て、信者であることは許されなくなりました。黒崎地区をはじめ多くの信者が、お寺さんの門徒になり 神社の氏子とならざるを得ませんでした。しかし 表向き門徒、氏子であっても 秘かにキリストの教えは伝えられ 守られて来たのです。

人里離れた山中に祈りの場を置き、亡き信者を目立たぬように葬り、墓所をつくりました。



ここ枯松神社はどこにもあるような小さな祠、集落の神社です。

参拝の方々が 急な坂を上がってきます。



祭りに参加する方々 少しずつ集まってきます。
でも 祭りを司る方が・・・ 神主さんではない。
そうです なんとカトリックの司祭様にシスター、 祭典も賛美歌に始まり賛美歌で終わる・・・
途中 古来伝わるオラシヨの奉納？が隠された信仰の面影を伝えます。





ここの祭典、一般の神社の祭りとはかけ離れた祭典です。

と いうのも この枯松神社、名前こそ神社ですが御祭神は、迫害のあるなか隠れてキリストの教えを伝え、人々を導いた宣教師サン・ジワン様なのです。

このように盛大にミサ？が執り行われるようになったのはつい最近のこと、お堂の再建も近年のことです。

禁教当時は命がけ、それとはわからない小さな祠が在るだけ、役人に悟られないように秘かに祭っていたの
でしょう。

遠い昔の方々の信心を思い 若干の御奉納をさせていただきました。

